商 法

(問 題)

2025 年度

注 意 事 項

1. 問題冊子、解答用紙および貸与六法は、試験開始の指示があるまで開かないでください。
2. 問題は2頁に記載されています。問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁および汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
3. 下書用紙は一人につき一枚のみ配付します。
4. ラインマーカー、色鉛筆、修正液等は、問題冊子・下書用紙に使用することを許可しますが、解答用紙に使用した場合は、不正行為とみなすことがあります。
5. 貸与六法への書き込みは、不正行為とみなすことがあります。
6. 試験開始の指示の後、解答用紙表紙の所定欄に、受験番号、氏名を記入してください。受験番号は正確に3箇所に入力してください。読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意してください。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記用具を置いてください。終了の指示に従わず筆記用具を持っていたり解答を続けた場合は、不正行為とみなすことがあります。
8. 試験終了後、問題冊子・下書用紙は持ち帰ってください。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
10. 解答用紙に記載の注意事項もあわせて確認してください。

問題 (80 点)

甲株式会社は、EV自動車用のバッテリーの製造販売を目的とする取締役会および監査役会設置会社であり、現在、東京証券取引所のグロース市場にその株式を上場している(種類株式発行会社ではない)。甲社は、学生時代の友人であるAおよびBが中心となって設立し、創業時から現在まで、技術者であるAが代表取締役として設計・製造を、広い人脈をもつBが取締役営業部長として販売を推進してきた。甲社は、工場や機械等の新設・刷新のため、当初はもっぱらBの叔父にあたる資産家のCに株式を引き受けてもらうことによって資金を調達し、上場を果たすまでに成長した。上場時はAが10%、Bが10%、そしてCが31%の株式を保有していた。かねてから健康を害していたCは、上場を見届けるように死亡してしまっていたが、その唯一の相続人であるDは、とくに甲社の経営や業績には関心がない。

最近、代表取締役Aおよび取締役営業部長Bを含む甲社の取締役は、甲社の株価が期待より伸びていないと感じるようになった。そのようなときに、有名な業界紙に、「甲社は会社資産の効率的な利用に難があり、しかも、上場までに株式を発行しすぎたためそれが一株あたりの利益率にも影を落としている」という、あるアナリストの批評が掲載されてしまった。そこで甲社では取締役会を開催し、会社財産の整理・合理化によりその利用の効率性を高めることと並行して、自己株式を取得することによって、市場に流通する株式の数を減らし一株分の配当を高めることを決定した。その際、①Cの保有株式を相続したDが相続税の支払いに窮している状況をふまえ、これまでのCの援助にむくいるために市場価格より高い買取価格で、Dから発行済株式の16%の株式を買い取る方法と、②市場で発行済株式の16%の株式を買い取る方法の二つが提案された。

①と②のそれぞれの方法を実行するにあたって、会社法上どのような手順をとる必要があり、また、それぞれどのような法的なリスクやメリットがあるのかについて、甲社の取締役会は弁護士に相談することにした。この相談を受けた弁護士として、どのように回答すべきかを論じなさい。

〔以下余白〕